

2025 年 10 月 23 日

都道府県ライフセービング協会
JLA 加盟クラブ
JLA 指導員
JLA 認定ライフセーバー 各位

JLA メディカルダイレクター
JLA 救助救命本部
JLA アカデミー本部

「新型コロナウイルスをはじめとする各種感染症に対するライフセーバーの水浴場監視救助活動ガイドライン 2025」(2025 年 6 月 25 日発信)へ JLA 加盟クラブからの質疑に対する解釈回答について

1. ライフセーバーのガウン着用について

(質問 1)

「新型コロナウイルスをはじめとする各種感染症に対するライフセーバーの水浴場監視救助活動ガイドライン 2025」(2025 年 6 月 25 日発信)には、「傷病者の血液や体液の飛沫等にライフセーバーが接触するような場合はガウンを着用してください。」という記載があり、CPR 中はこの「体液の飛沫に接触する」状況下にあると認識しています。

一方で、昨年の審査会の推奨事項には「防御衣を着用する時間があれば、胸骨圧迫開始に充てた方が良いですね。現在はマスクとゴーグルだけで十分であると思います。」というメディカルダイレクターのコメントが掲載されています。

どちらを重視して取り組めばよろしいでしょうか。

(質問 1 の回答)

「新型コロナウイルスをはじめとする各種感染症に対するライフセーバーの水浴場監視救助活動ガイドライン 2025」(2025 年 6 月 25 日発信)、3. 心停止の場合における感染対策を考慮した CPR の (1) に記載のとおり「感染対策は大切ですが、傷病者へのファーストタッチから CPR 開始までが遅れないようにしてください。」と記載されています。

過去のシミュレーション審査会の実績から、CPR 開始までの時間に早いチームと遅いチームの差が 2 分 30 秒程度あります。

ここまでの時間の開きというリスクを優先してガウン着用は推奨しないという解釈になります。

2. 傷病者のマスク着用について

(質問2)

「新型コロナウイルスをはじめとする各種感染症に対するライフセーバーの水浴場監視救助活動ガイドライン 2025」(2025 年 6 月 25 日発信)には、「胸骨圧迫はエアロゾル発生につながるので、傷病者の口と鼻を、タオルやサージカルマスクで覆うなどして、エアロゾル拡散を防いでください。」という記載があります。

一方で、実際に CPR を行った際も、心肺蘇生を行うとそれに合わせて間をおかずに逆流が続きしました。マスクを着用させてしまうと、この逆流を覚知できずかえって危険な状況にもなり得ないと考えました。

その場合も、感染対策を優先してマスクを着用させた方がよろしいでしょうか。

(質問2の回答)

救助者のライフセーバーはサージカルマスクとゴーグル、グローブなど PPE を適切に装着しているのであれば、感染症流行期であっても傷病者にマスク装着は不要です。

以上

◆問合せ先：JLA 事務局 担当 蛭間・中山

TEL：03-6381-7597（平日 12：00-18：00）

E-mail：patrol@jla.gr.jp